

11月11日・12日の本会議で増永議員、安藤議員、ひろ議員が一般質問を行いました。

増永わき議員

PF₆O₄汚染について

問 PF₆O₄流出防止対策の遮水壁工事をダイキン工業が行っている。効果、近隣住民の井戸の濃度、敷地内の情報公開、敷地外対策について伺う。

答 **生活環境部長** 近隣井戸は昨年2万6千ng/l、今年3万ng/l、効果はいずれ出る。情報公開は促している。敷地外対策は工事完成を注視する。

問 濃度上昇ということは遮水壁に効果はない。情報公開も進展ない。敷地外対策はすぐ必要だ。工事完成はいつか。

答 **生活環境部長** 未定。

問 安威川以北の水道水を供給する太中浄水場のPF₆O₄濃度が上昇したが、原因を問う。

答 **上下水道部長** 井戸1本を休止中。原因究明は難しい。

問 近くのガランド水路が原因ではないか。下水処理施設から安威川へ放流される処理水から、2003年に6万7千ng/lという世界的汚染が発覚。原因はダイキン工業の下水だ。同じ処理水が長年ガランド水路に流されてきた。調査すべきではないか。

答 **上下水道部長** 下水道法に規定ないので調査しない。

問 PF₆O₄はごにも影響強い。保護者から「給食室に浄水器を」と要望。設置どうか。

答 **教育総務部長** 暫定目標値を下回っているのが安全。

増永議員のその他の質問項目

- ◎ マイナ保険証一本化でなく現行の保険証を残すことについて
- ◎ 性暴力支援センター・大阪SACHEROの存続について

安藤かおる議員

新市長の市政運営の方針について

問 市長が所信表明で述べた「ウェルビーイングを踏まえたまちづくり」を問う。

答 **市長** 「ウェルビーイング」とは、身体的・精神的・社会的に良好な状態を指し、単なる病気や貧困の回避に留まらない幸福感や生活の質の向上を目指す概念。この「ウェルビーイング」を「市民の持続可能な幸福」を実現していくことであると捉えている。

問 全体の奉仕者として市職員体制の強化や子ども、高齢者、障害者等のケアを担う専門職の安定雇用が必要である。見解を問う。

答 **市長** 高度な知識や技術が必要となる専門職の人材確保において、募集対象年齢の上限拡充や1年間に複数回の採用試験を行なっている。1年更新の会計年度任用職員については、報酬の見直し、勤勉手当の導入のほか、2回までの任用回数制限を撤廃していく。

公共交通の充実について

問 地域公共交通協議会における市民参加を問う。

答 **建設部長** 市民参加の必要性は認識。本協議会には2名の市民委員が参加している。交通事業者中心の分科会の協議内容を共有し、理解を深める意見交換会を重ねることで公共交通利用者の目線で意見やニーズを発信する役割を果たしていただいている。

ひろ議員

物価高騰のまじり公共料金等の負担

軽減を行うことについて

問 厳しい物価高が続く中で、とりわけ低所得者への対策は不十分。市の独自施策をおこなう必要性を問う。

答 **市長公室長** 国における総合的な対策が必要。市としては生活に困窮する市民に寄り添う役割を果たしていくことが肝要と考えている。

問 水道料金の改定について当面は先送りしているが、上下水道ビジョンの中間見直しの考え方を問う。

答 **上下水道部長** 料金改定については値上げをする自治体もあるが、可能な限りの経営努力を行っている。老朽管の更新や耐震化などの必要な設備投資と、経営の健全性のバランスを保ち、持続可能な財源見直しを試算する。

問 生活保護基準や年金額、賃金の底上げが追い付いていない中、当面は市が決められる公共料金等の引き上げは避けろべき。市長の見解を問う。

答 **市長** 市民生活は厳しいものと感じている。一方で行政サービスに係るコストも増えていく中、将来世代に負担を強いることのないよう財政の舵取りを行わなければならない。慎重に判断していきたい。

ひろ議員のその他の質問項目

- ◎ 学校給食の無償化について
- ◎ 学童保育事業について
- ◎ 生活保護制度利用者の現状について

